

N o	項	項目	意見の概要	意見に対する考え方	修正
1	21、22	歴史関係公共施設全般の公共施設の活用方法	公共施設のあり方については、現在の利用状況だけでなく、将来の利用需要の変化を踏まえて検討することが重要と考えます。 そのため、従来と同じ発想で施設を維持し続けるだけでは、利用需要が今後も減少していく可能性があります。社会環境の変化を踏まえ、施設の役割や活用方法について柔軟な見直しを進めていただくことを期待します。 【黒田家代官屋敷資料館】 黒田家には天正2年（1574）の高天神城籠城に関する歴史があり、年間約7,000人が訪れる高天神城との連携により、新たな来館者層の獲得が期待できます。展示や情報発信を工夫することで、若い世代が地域の歴史を学ぶ拠点となり、施設の価値向上や長期的な維持にもつながると考えます。 【小菊荘】 今後は、施設用途や事業形態を抜本的に見直し、将来の需要や地域の実情に対応した活用方法を検討することが望まれます。 代官屋敷資料館と重なりますが、高天神六砦の一つ「獅子ヶ鼻砦」の麓にある立地を活かし、高天神城に関連する展示を行った方が、県外や市外からの需要にマッチし、施設の価値向上に繋がる様に思えます。商工観光課と埋蔵文化財センターが連携し、獅子ヶ鼻砦が持つ価値を調べ直した上で、今後の維持管理について再検討いただきたいです。	本計画は、公共施設等の適正配置や長寿命化に向けて基本的な施設の管理方針を定めるものであり、各施設については、建物の課題を踏まえながら、方針に沿って各所管課において今後8年の整備・維持・修繕計画を掲載しております。 いただいたご意見につきましては、施設管理課と共有し、今後の参考とさせていただきます。	無